

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-6454

(43)公開日 平成6年(1994)1月14日

(51)Int CL⁶
H 04 M 3/42職別記号 C
Q
R

F I

技術表示箇所

11/00 303 8627-5K

審査請求 未請求 請求項の数1(全 7 頁)

(21)出願番号

特願平4-185984

(22)出願日

平成4年(1992)6月19日

(71)出願人 000220262

東京瓦斯株式会社

東京都港区海岸1丁目5番20号

(71)出願人 390031897

株式会社ティージー情報ネットワーク

東京都港区芝公園3丁目1番13号 サティ

ア芝公園ビル

(72)発明者 米山 淳

神奈川県横浜市南区南太田3-312

(72)発明者 佐藤 裕人

東京都豊島区池袋1-48-6

(74)代理人 井理士 鈴木 弘男

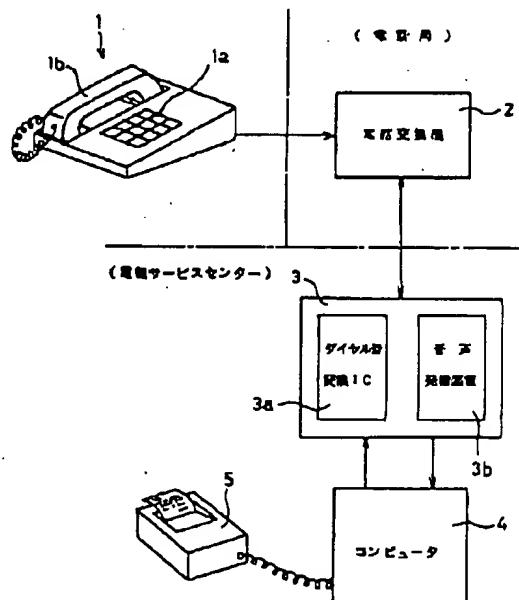
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 電話機による文字電送システム

(57)【要約】

【目的】 簡単な操作で電話機からの文字電送が自動的にできる文字電送システムを提供すること。

【構成】 電話機1のダイヤルを利用して2桁の数字を入力し、その入力された2桁の数字を電話通信手段により送り、この送られた2桁の数字を仮名文字割り当て手段により所定の規則に従って少なくとも対応する仮名文字に割り当て、その後変換手段により仮名文字に変換する。



Best Available Copy

(2)

特開平6-6454

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 電話機と、該電話機のダイヤルを利用して2桁の数字として入力された情報を送する電話通信手段と、該電話送信手段により送される2桁の数字を所定の規則に従って少なくとも対応する仮名文字に割り当てる文字割当手段と、前記2桁の数字を該文字割当手段により割り当たられた仮名文字に変換する変換手段とを備えたことを特徴とする電話機による文字送信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は電話による全自动の電報受付や番号の問い合わせなどに利用できる電話機による文字送信システムに関する。

【0002】

【従来技術】 従来、特定の番号をダイヤルすることにより電話による電報受付や電話番号の問い合わせは可能であるが、これらの業務には人が介在していた。そのため人件費の上昇がそのままコスト上昇に反映し、そのうえ公定価格であるために、採算にあわない部門とされ、サービスの向上もままならない状況となっている。また、電文が「平仮名」でしか扱えないのも不採算部門であるからと推察する。今の世の中で「平仮名」のみの世界は珍しくて異常である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、家庭や職場での電話の普及は目ざましく、戸外の公衆電話や自動車電話、さらには携帯電話まで考えると、多くの人にとって電話の利用度は極めて高い。

【0004】 そこで電話を利用して人を介さず電報の受付や電話番号の問い合わせが自動化できることが望まれている。

【0005】 本発明は上記の点にかんがみてなされたもので、簡単な操作で電話機からの文字送信が自動的にできる文字送信システムを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記目的を達成するために、電話機と、該電話機のダイヤルを利用して2桁の数字として入力された情報を送する電話通信手段と、該電話送信手段により送される2桁の数字を所定の規則に従って少なくとも対応する仮名文字に割り当てる文字割当手段と、前記2桁の数字を該文字割当手段により割り当たされた仮名文字に変換する変換手段とを設けることにより文字送信システムを構成した。

【0007】

【作用】 電話機のダイヤルを利用して2桁の数字として情報を入力し、入力された2桁の数字を電話通信手段により送り、送された2桁の数字を所定の規則に従って少なくとも対応する仮名文字に割り当て、その後仮名文字に変換する。

【0008】

【実施例】 以下本発明を図面に基づいて説明する。

【0009】 第1図は本発明を電報受付に適用した実施例のシステムのブロック図である。

【0010】 1はたとえば普通の卓上型プッシュホンであり、電話機本体の前面パネルに電話番号入力用の数字0~9および*、#から成るプッシュボタン1aが設けられ、電話機本体の横に受話器1bが置かれている。

【0011】 2は電話局に備えられた電話交換機、3は電報サービスセンター内に備えられた通信端末機、4は同センター内に備えられたコンピュータ、5は同センター内にある電報文プリンタで電報文を用紙に印刷する。通信端末機3には、電話交換機2から受信したダイヤル音を数字に変換するダイヤル音変換IC3aとコンピュータ4からの指示に基づいて音声を発する音声発信装置3bとが設けられている。

【0012】 図2は電話機から仮名文字、ローマ字、数字を入力する際に使用する文字/数字割当てテーブルの一例を示す。

【0013】 2桁の数字に対応して数字、仮名文字、ローマ字、指示機能が次のように割り当てられている。

(1) 数字「0」～「9」

「0」～「9」の各々に対応して2桁の数字「00」～「09」が割り当てられている。たとえば、数字「3」に対しては2桁の数字「03」が割り当てられているので、プッシュボタン1aの「0」と「3」をこの順に押すことにより数字の「3」が入力できる。

(2) 平仮名

平仮名の各文字に対応してやはり2桁の数字が割り当てられている。たとえば、平仮名の「よ」に対しては2桁の数字「85」が割り当てられているので、プッシュボタン1aの「8」と「5」をこの順に押すことにより平仮名の「よ」が入力できる。

【0014】 図2のテーブルがそうであるように、各平仮名に対する2桁の数字の組合せが覚えやすいように、2桁の数字の内10の桁の1、2、3、…9のそれぞれを一列、二列、三列、…九列に対応させておくのがよい。なお、「わ」、「ん」、「を」にはそれぞれ「82」、「84」、「86」が割り当てられている。

(3) ローマ字

ローマ字の各々に対応して、1～7から選ばれた10の桁と、6～9から選ばれた1の桁とから成る2桁の数字が割り当てられている。たとえば「J」には2桁の数字「37」が割り当てられている。

(4) 指示機能

電話機から電報を打つに当たって必要な指示に対して次のような2桁の数字が割り当てられている。

【0015】

(3)

特開平6-6454

| 指示機能 | 割り当てられた数字 |
|---------------|-----------|
| 削除 | 1 0 |
| 平仮名・英大／片仮名・英小 | 2 0 |
| 宛先 | 3 0 |
| 発信者 | 4 0 |
| 毛文 | 5 0 |
| 郵便番号 | 6 0 |
| 住所 | 7 0 |
| 組織名 | 8 0 |
| 氏名 | 9 0 |
| 点 | 7 8 |
| 数字 | 8 9 |
| 半濁点 | 9 6 |
| 濁点 | 9 7 |
| 長音 | 9 8 |
| 決定 | 9 9 |
| 電文繰り返し確認 | * |
| キヤンセル | # |
| コード | 8 7 |

次に電話機から電報を打電する際の手順およびシステムの動作を図3および図4のフローチャートを用いて説明する。

【0016】まず、発信者は電話機1のブッシュボタン1aを操作して電報サービスセンターにダイヤルする(F-1)。このとき通話中ならば通話が終了するまでダイヤルを繰り返す(F-2)。電報サービスセンターにつながると、コンピュータによる合成音声で、たとえば「電報を依頼いただきありがとうございます。電報マニュアルに従い、平仮名を2桁の数字に置き換えてダイヤルして下さい。この方法に慣れた方はボタン“1”を押してください。慣れていない方はボタン“2”を押してください。ボタン“2”を押しますと、こちらのコンピュータが手順をご指導しますので、その指示に従ってダイヤルして下さい。」とのメッセージが流れるので、手順を知っている発信者はボタン“1”を押し、慣れていないか知らない発信者はボタン“2”を押す。いずれの場合もブッシュボタン1aにより打電宛先の郵便番号を入力し(F-3)、発信者は入力した郵便番号を受話器1bで聞き取ることができるので、正しく入力したことが確認できた時は最後に2桁の数字「99」(決定)を入力する。発信者はコンピュータ4から電話局の電話交換機2を介して送られてくる音声により自分が入力した郵便番号が正しいことを確認し(F-4)、確認できれば「決定」を指示する2桁の数字「99」を入力するが、やり直しならば「削除」を指示する2桁の数字「10」を入力する(F-5)。

【0017】次に、宛先の住所を入力すべく2桁の数字「70」(「住所」)を入力し(F-6)、その後「80」を押して宛先の企業またはホテルなどの組織名を入力する(F-7)。電報サービスセンターではステップ

20 20 (F-7)で入力された組織名をチェックし(F-8)、誤りがあれば(F-9)誤り箇所を受話器1bを介して音声で指示する(F-10)。その時は正しい情報に入力する(F-11)。その後数字「50」を入力して「毛文」を入れることを指示してから毛文を入力し、最後に数字「99」(「決定」)を入力する(F-12)。

【0018】電報サービスセンターでは、コンピュータ4により電文全文を漢字に変換し、音声発信装置3bから電話交換機2を介してブッシュボタン1aの受話器1bから発信者に戻す(F-13)。最後に発信者名を入力するために数字「40」を入れ、続いて数字「70」(「住所」)を入力した後、平仮名、ローマ字による発信者名と、平仮名、ローマ字、数字による住所を2桁の数字を用いて入力する(F-14)。発信者名と住所が正しく入力し終わったら数字「99」(「決定」)を入力する(F-15)。

【0019】以上の操作が終了すると、受話器1bから「よろしければボタン“9”を押してください」のメッセージが流れるので、電報文をそのまま流す時はボタン“9”を押せばよいし、それまで入力した電報文をキャンセルしたい時はボタン「#」を押す(F-16)。その後、コンピュータ4からの指示でプリンタ5が電報文を所定の用紙に印刷する(F-17)。その後の配達処理は従来と同じである。

【0020】結婚式場の祝電のように電報文が頻繁に発信するところに対しては、電報サービスセンターのコンピュータ4に電話番号および宛先変換テーブルを用意しておき、利用者が相手先の電話番号をダイヤルするだけで希望する電報文が打てるようすればさらに利用し易くなる。

(4)

特開平6-6454

5

【0021】本発明の別の実施例としては電話機から電話番号を問合わせる場合にも適用することができる。

【0022】電話番号を問合わせたい相手先の郵便番号、町名、苗字、名前を図2に示した文字／数字割当てテーブルを用いて2桁の数字により入力すると、電話番号問合せセンターのコンピュータは顧客名簿を検索し、その結果をコンピュータ合成音で回答する。この電話番号問合せの手順およびシステムの動作は上述した電報打電の場合と基本的には同じであるので説明は省略する。

【0023】上記実施例では入力した仮名文字を漢字変換しないものとしたが、指示機能の1つとして漢字変換を設けることにより漢字変換させることも容易である。この場合、氏名によく見られる特殊な文字や当用漢字以外あるいは当て字を入力できるように数字「87」で選択できる「コード」機能が用意してあり、漢字JISコードを用いて入力することができる。さらにローマ字入力ができるので外人にも利用できる。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、本発明においては、電話機のダイヤルを利用して2桁の数字で情報を入力し、入力された2桁の数字を電話通信手段により送り、送られた2桁の数字を所定の規則に従って少なくとも対応する仮名文字に割り当て、その後仮名文字に変

6

換するように構成したので、誰もがどこからでも利用できる電話機から簡単な操作で文字を入力することができるため、この文字送信システムを電報業務に応用すれば無人の電報発信が可能となるし、電話番号問合せ業務に応用すれば無人の電話番号解読が可能となり、人手不足の問題を解消し人件費の上昇を解決することができる。本発明によるシステムをほかの業務に結び付けることも可能である。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明による電話機からの文字送信システムを電線の打電に応用した場合の全体構成図である。

【図2】本発明で用いる文字／数字割当てテーブルの一例である。

【図3】本発明を電報受付業務に応用した場合の文字入力から電文発信までの手順と動作を示すフローチャートの一部である。

【図4】図3に続くフローチャートの残部である。

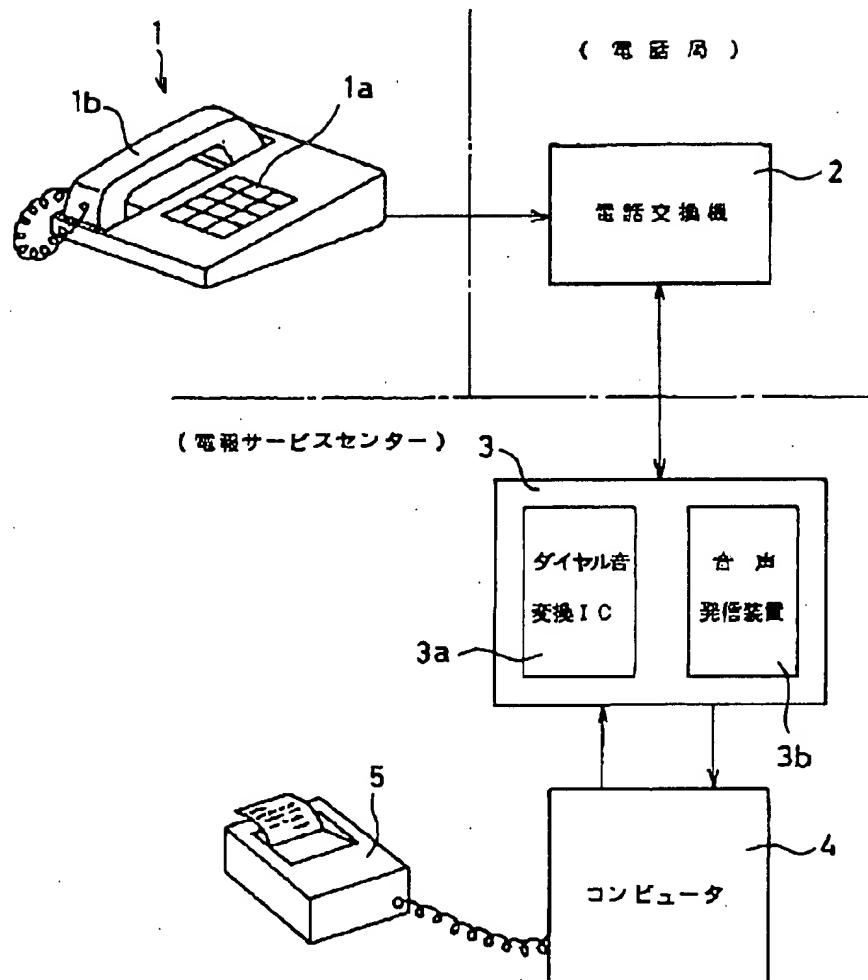
【符号の説明】

20 1 電話機
2 電話交換機
3 通信端末器
4 コンピュータ
5 プリンタ

(5)

特開平6-6454

[図1]



(6)

新規平6-6454

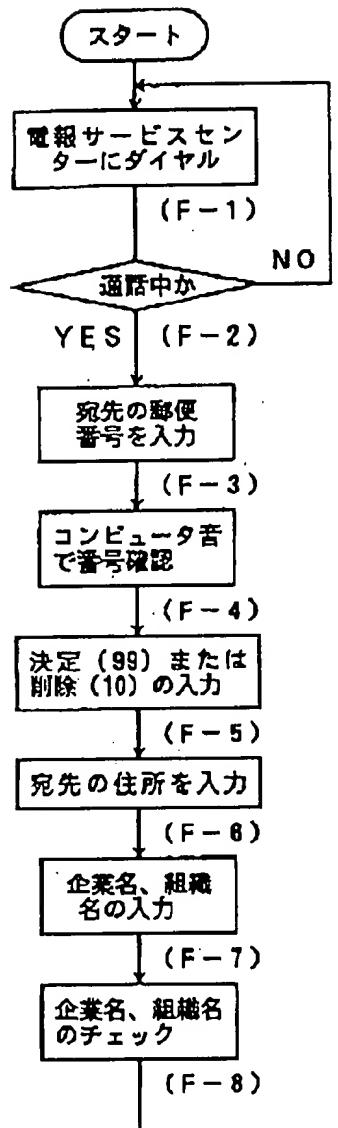
【図2】

| 1の行 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|----------------|---|---|---|---|---|-----|-----|----|-----|-----|
| 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 1 削除 | あ | い | う | え | お | ア | ビ | シ | カ | ド |
| 2 平・英大 片・英小 | か | き | く | け | こ | エ | フ | グ | ハ | ヒ |
| 3 完先 | さ | し | す | せ | そ | ー | ジ | カ | ル | ル |
| 4 番信者 | た | ち | つ | て | と | ミ | ニ | オ | ピ | ピ |
| 5 電文 | な | に | ぬ | ね | の | オ | リ | ス | タ | タ |
| 6 郵便番号 | は | ひ | ふ | へ | ほ | ウ | ヴ | ワ | × | × |
| 7 住所 | ま | み | む | め | も | ヤ | ズ | 点 | カシマ | カシマ |
| 8 組織名 | や | わ | ゆ | ん | よ | を | コード | 短音 | 数字 | 数字 |
| 9 氏名 | ら | り | る | れ | ろ | 半濁点 | 濁点 | 最音 | 決定 | 決定 |

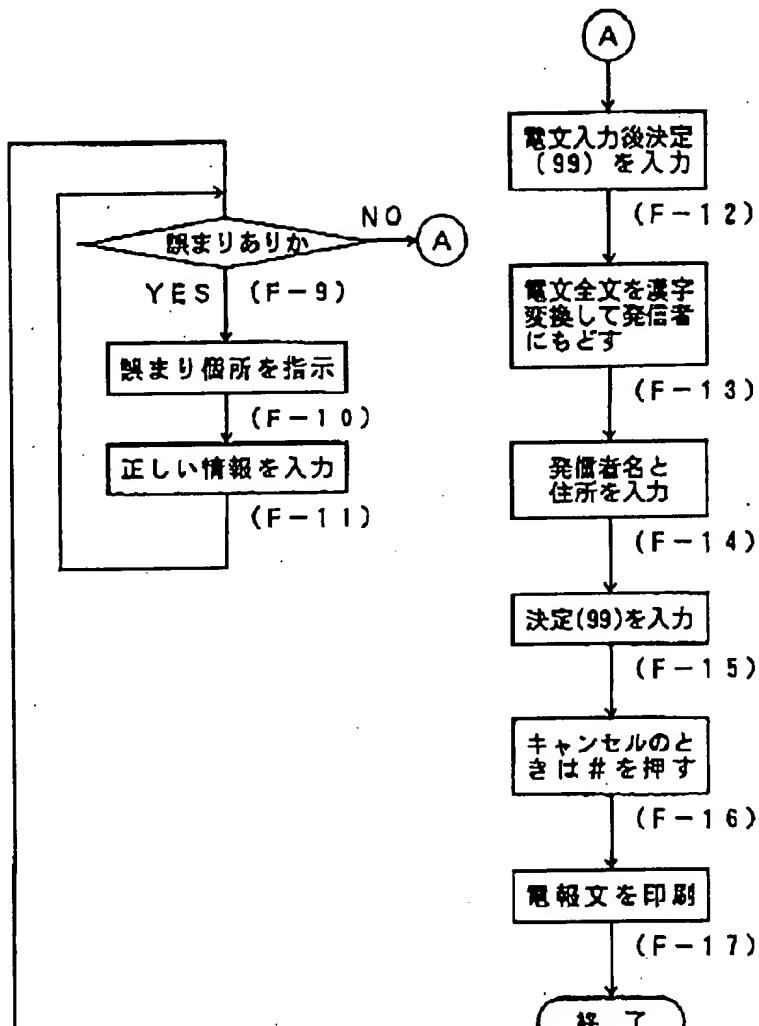
(7)

特開平6-6454

【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72) 発明者 畠知 孝嘉
茨城県稻敷郡笠崎町森の里51-10

(72) 発明者 藤原 邦子
東京都中野区白鷲2-13

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.